



新年度のごあいさつ

地球温暖化の影響か、年々冬の寒さに、厳しさが少なくなっていくように感じます。春になって、センターに新しく加わった職員と共に、新年度を迎えることができました。これもひとえに、地域の皆様、関係者の方々の御支援と御協力の賜物と、心より御礼申し上げます。今後も皆様の御期待に応えるべく、職員一同、なお一層の研鑽に励む所存です。

少子高齢化とともに、わが国の医療財政は年々厳しさを増しており、回復期病棟でも、短期間に成果をあげることが求められるようになりました。センターの回復期病棟では、歩行支援ロボットや動作解析装置を用いた歩行のリハビリテーション、ドライビングシミュレーターや実車を使った運転再開支援、摂食・嚥下リハビリテーション等を行い、障がいを持った方たちができるだけ早く退院して、住み慣れた地域で自立した生活、生きがいのある生活を送れるよう、集中的に専門的リハビリテーションを行っています。また、地域にもどってからも、訪問看護・訪問リハビリテーションを通して、行動範囲・生活範囲を広げるお手伝いをしています。

本年度も、皆様方の御支援、御鞭撻を賜りたく、何卒よろしく御願い申し上げます。



センター長
榎前 薫
ひのくま

令和元年度 新入職員

理学療法士3名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、
看護師2名、管理栄養士1名、介護士1名、社会福祉士1名、
事務員1名 計17名の新しい仲間を迎えました!!



今年のニューフェイス!
明るく元気に頑張ります♪
よろしく御願い致します!!

新任医師紹介

地域連携推進部 部長 **今村 剛**
いまむら つよし

日本リハビリテーション医学会専門医 日本内科学会認定内科医 日本脳卒中学会専門医
日本老年医学会専門医・指導医

昨年9月から非常勤医師に就任、本年4月から常勤医師として当センターに勤務することになりました。

九州大学を平成3年に卒業後は、主に脳卒中急性期治療に携わってきました。その後、平成23年からリハビリテーション診療に取り組み、従来の西洋医学だけではなく、漢方薬や鍼灸治療など、幅広い治療手段を用いた診療を目指しています。

また最近話題の動作解析やロボットを用いて成果が見えるリハビリテーションの実現や、近隣の病院や介護施設と連携しながら、地域に根ざした病院となることにも貢献していきたいと思っています。どうぞよろしく御願いいたします。



摂食・嚥下障害

鳩はむせない？

— 食事の中のむせと誤嚥性肺炎 —



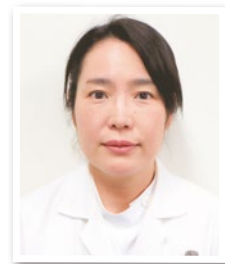
鳩と言えば平和のシンボル。ノアの方舟から放った鳩がオリーブの葉をくわえて戻ってきたのを見て、近い将来、再び大地に立てる日がくると希望を抱くことができたという物語から、鳩は平和な未来に対する希望の象徴とされたと聞きます。

一方で、鳩は頭を上下させながらせわしく何かをついばんでいても、のどを詰まらせている様子がないことから、古来、中国や日本では鳩はむせない鳥とされています。中国では宮中から老臣を慰労するために鳩の飾りがついた箸を下賜されたという故事から、長寿を祈って鳩の杖を贈る風習が始り、日本にも伝わったとされています。また東伊豆でもそんな鳩にあやかって「赤ちゃんがむせずにお乳をよく飲み、元気に成長しますように」との願いを込めてつるし雛の鳩を作ります。本当に鳩はむせないのか、真偽のほどはわかりませんが、つるし雛といい、鳩の杖といい、昔から乳幼児や高齢者がむせこむ姿を見ると皆で心配し、息災を願ったと思うと、摂食嚥下障害に関わる一医療従事者としてあらためて胸が熱くなります。

食事中にむせる、ということは多かれ少なかれ誰も経験されたことがあると思います。つばや口に入れた飲み物、食べ物はのどを通して食道に入り、胃へと送られます。食道の入口と呼吸のための気管の入口はとても近いところにあるので、飲み物などは食道へ、呼吸は気管へと間違わずに送り込むためにはとても繊細な調節が必要です。そのためあわてて飲んだ時や、口の中に物が入っているのに他のことに気を取られていたり、うっかり何かしゃべろうとした時に、気管につばや飲み物・食べ物が入ってしまうことがあります。これを誤嚥と言います。ご病気や加齢により口や喉の動きが鈍くなってしまふとさらに誤嚥のリスクは高くなります。たいていの場合は気管から飲み物や食べ物を排出しようとする反射である咳嗽反射がいそうがおこります。これが「食事中にむせる」という状況です。しかし、飲み物や食べ物が気管に入ってしまったのに、咳が弱くて気管の外へ出し切れないということを繰り返していると、口の中の細菌と一緒に誤嚥性肺炎を発症することがあります。こうなると呼吸という大事な機能に大きなダメージを受けますので、命に関わることもあります。また長期間このような状況にあると、食べても食べても栄養が身につかず、低栄養に陥ることもあります。

誤嚥性肺炎は平成29年の死因7位(厚生労働省)です。誤嚥性肺炎予防のためには、普段からの健康管理、特にお口の健康、体力の維持、栄養管理などが重要です。

当センターでは医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、歯科衛生士、管理栄養士、放射線技師などの多職種によるチームアプローチで摂食嚥下障害に取り組んでいます。



診療部 歯科医師 小林美加

当センターにおける摂食・嚥下障害への対応

診断

- ・医師による診察
- ・スクリーニング検査
- ・画像検査(嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査)



対応

- ・全身管理
- ・口腔機能のリハビリテーション
- ・栄養管理
- ・歯科治療

嚥下機能に応じたお食事の例

ペースト食(再形成)



軟菜一口大食



常菜食



健康維持

編集
発行

社会福祉法人
農協共済中伊豆リハビリテーションセンター

〒410-2507 静岡県伊豆市冷川1523-108 TEL.0558-83-2111 (広報委員会)

中伊豆リハビリテーションセンター

発行日 平成31年4月15日

